



## 1. リスト：巡礼の年 第1年「スイス」より「ル・マル・デュ・ペイ」

リストはあらゆるジャンルに及ぶ多作家で知られるが、自身が演奏家として活躍したピアノ曲においては、その全貌が認められているとは言えない。「巡礼の年」は全4巻26曲からなる規模の大きなピアノ小品集で、スイスとイタリアで見聞した風物への印象をピアノに託して音楽化したもの。第8曲「ル・マル・デュ・ペイ (Le mal du pays)」は郷愁、ノスタルジアなどと訳され、当時のヨーロッパに自殺熱をまき散らした書簡体の文学「オーベルマン」の主人公が感じた田園への郷愁を音楽で表している。

### 『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』

つくるとは読んでいた本のページから目を上げ、これは何という曲なのかと灰田に尋ねた。

「フランツ・リストの『ル・マル・デュ・ペイ』です。『巡礼の年』という曲集の第一年、スイスの巻に入っています。」

(文藝春秋 2013 p62)

その音楽は灰田に繋がっていたし、シロにも繋がっていた。

(略)彼はその音楽を聴くたびに、とりわけ『ル・マル・デュ・ペイ』のトラックに耳を傾けるたびに、二人のことを鮮やかに思い出すことになる。

(同上 p244)

「君はリストの『巡礼の年』のことを覚えている？ユズがよく弾いていた曲があった」、しばらくあとで、その沈黙を破るためにつくるとは尋ねた。

「『ル・マル・デュ・ペイ』。もちろんよく覚えている」とエリは言った。

(同上 p305)

### 鑑賞 LP

『ベルマン/リスト<巡礼の年>』

ラザール・ベルマン(p) 1977年録音

Deutsche Grammophon MG-8270/2

請求記号 CLP13/S1119 (42201194)

### 関連 CD

… フィンランドでエリと聴いた演奏

『巡礼の年 第1年：スイス/リストほか』

アルフレッド・ブレンデル(p) 1986年録音

PHILIPS PHCP-3820

請求記号 CD13/リスト (41155136)

## 2. ロッシーニ：歌劇「泥棒かかさぎ」序曲

歌劇「泥棒かかさぎ」は、「セビリアの理髪師」の2年後、ロッシーニ25歳のときに作曲した二幕のオペラ・ブッファ。台本はゲラルディーニ。音楽的には「セビリア」をしのぐといわれるが、台本が良くなかったため、序曲のみ演奏されることが多い。

筋書きは、銀食器を盗んだ嫌疑で牢獄に入れられた娘ニネッタが父を案じて自分の所持金を友人に託したところ、一羽のかかさぎが銀貨一枚を盗んで飛び去った。友人がかかさぎを追って鳥の巣までいってみると、なくなったはずの銀食器がある。ニネッタの嫌疑は晴れ、疑われた代償として、今まで身分違いとして許されなかった結婚を許してもらおうというもの。

### 『ねじまき鳥クロニクル』

台所でスパゲティをゆでているときに、電話がかかってきた。僕はFM放送にあわせてロッシーニの『泥棒かかさぎ』の序曲を口笛で吹いていた。それはスパゲティをゆでるにはまずうってつけの音楽だった。

電話のベルが聞こえたとき、無視してしまおうかとも思った。スパゲティはゆであがる寸前だったし、クラウディオ・アバドは今まさにロンドン交響楽団をその音楽的ピークに持ち上げようとしていたのだ。

(第1部泥棒かかさぎ編 新潮社 1994 p7)

彼は前と同じようにロッシーニの「泥棒かかさぎ」序曲を吹いていた。口笛で吹くには簡単ではないメロディーだが、彼は苦もなくそれをこなししていた。僕はその口笛のする方に向かって廊下を進んでいた。

(第3部鳥刺し男編 新潮社 1995 p397)

### 鑑賞 LP

『バーンステイン・ロッシーニ名序曲集』

レナード・バーンステイン指揮、ニューヨーク・フ

イルハーモニー交響楽団 1960年録音

COLUMBIA OS-936-C

請求記号 CLP10/M582

(40090771)

### 関連 CD

… 歌劇「泥棒かかさぎ」の全曲盤

ジャンルイジ・ジェルメッティ指揮、RAI トリノ

交響楽団 1989年録音

CBS SONY CSCR-8232/4

請求記号 CD15/㊦ (41017435)

### 3. リスト：ピアノ協奏曲第1番変ホ長調 第1楽章

リストは19世紀最大のピアニストでピアノのヴァルトゥオーソ芸術の確立者。標題音楽を発展させ、交響詩のジャンルを創始。ワーグナーとともに<新ドイツ派> <新ロマン派>と呼ばれる。

この曲は、リストの代表作のひとつ。当時軽音楽にしか使われなかったトライアングルを用いたり、古典的な協奏曲の形式を無視した構成に、初演時は批判があがったが、現在では演奏会効果に富んだ傑作として親しまれている。第1楽章は古典的なソナタ形式ではなく、弦のユニゾンによる力強い主題とその変奏。ピアノと管弦楽とで美しい歌謡的發展をとげたのち、静かにこの楽章を閉じる。

#### 『国境の南、太陽の西』

彼女の父親のレコード・コレクションの中で僕がいちばん愛好したのはリストのピアノ・コンチェルトだった。表に一番が入り、裏に二番が入っていた。僕がそのレコードを気に入ったのには二つの理由がある。ひとつにはレコード・ジャケットがとても美しかったからであり、…

(講談社 1992 p13)

僕らは一度、二人でコンサートに出かけたことがあった。リストのピアノ協奏曲を聴きに行ったのだ。島本さんが電話をかけてきて、もし時間があったら一緒に聴きに行かないかと僕を誘った。演奏者は南米出身の有名なピアニストだった。僕は時間をあけて、彼女と一緒に上野のコンサート・ホールまで行った。それはなかなか見事な演奏だった。テクニックは文句のつけようがなかったし、音楽自体も緻密で奥行きが深く、演奏者の熱い感情も随所に感じられた。…

(同上 p201)

#### 鑑賞 LP

マルタ・アルゲリッチ(p)、クラウディオ・アバド(指揮)、ロンドン交響楽団 1968年録音  
Deutsche Grammophon SMG-2057  
請求記号 CLP12/268a (42062844)

#### 関連 CD

… アルゲリッチの近年の演奏  
『ルガーノ・コンチェルト』マルタ・アルゲリッチ(p)、イオン・マリノ指揮、スイス・イタリアーナ管弦楽団 ほか 2004-2010年録音  
Deutsche Grammophon  
UCCG-1595/8  
請求記号 CD01/ル- (41335787)

### 4. シューベルト：ピアノ・ソナタ第17番ニ長調 第2楽章

交響曲第8番「グレート」と同じ時期の1825年に作曲された。演奏時間約40分と、ピアノ・ソナタとしては長い作品。ウィーンを離れ自然の中で休暇を過ごす中で作曲された。シューマンは「勇ましいニ長調のソナタ」と評した。

第2楽章はとくにシューベルトの個性が表れているとされ、歌の主題と2つのシンコペーションのエピソードが交互に登場し、広がりを見せる。すべての素材は冒頭の歌の旋律を展開してつくられる厳格な構造となっている。

#### 『海辺のカフカ』

「フランツ・シューベルトのピアノ・ソナタを完璧に演奏することは、世界でいちばんむずかしい作業のひとつだからさ。とくにこのニ長調のソナタはそうだ。とびっきりの難物なんだ。この作品のひとつかふたつの楽章だけを独立して取りあげれば、それをある程度完璧に弾けるピアニストはいる。しかし四つの楽章をならべ、統一性ということを念頭に置いて聴いてみると、僕の知るかぎり、満足のいく演奏はひとつとしてない。…」

(略)

「シューベルトは訓練によって理解できる音楽なんだ。僕だって最初に聴いたときは退屈だった。君の歳ならそれは当然のことだ。でも今にきつとわかるようになる。この世界において、退屈でないものには人はすぐ飽きるし、飽きないものはだいたいにおいて退屈なものだ。そういうものなんだ。…」

(上巻 新潮社 2002 p190-193)

#### 鑑賞 LP

『シューベルト：ピアノ・ソナタ全集』  
ウィルヘルム・ケンプ(p)  
1965~1969年録音  
Deutsche Grammophon  
2563 399/407  
請求記号 CLP13/286 (42183442)

#### 関連 CD

… 「一般的…」とされる演奏  
『シューベルト：ピアノ作品集 1』  
アルフレッド・ブレンデル(p) 1987年録音  
PHILIPS 422 063-2  
請求記号 CD13/シ1- (41014671)

## 5. ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第7番変ロ長調「大公」 第1楽章

古今のピアノ三重奏曲中最高傑作のひとつ。3つの楽器が、各々の美点を最高度に表現しながら、同時に全体の構造に見事に融合している。円熟した書法、雄大な構想、品格の高さ等、この分野にまったく新しい境地を開いた。初演は、ベートーヴェンがピアノを担当し、これはベートーヴェンがピアニストとして公開演奏を行った最後の機会のひとつとなった。ベートーヴェンの三重奏曲としては最後、かつ最大のスケールを持つ。

この演奏は、巨匠3人が集まった歴史的な名盤とされ、ハイフェッツ、フォイアマンの切れ味鋭い徹しい音楽をルービンシュタインの懐の深い音楽が大きく包み込んで気宇壮大な表現が生み出されている。

### 『海辺のカフカ』

「音楽はお耳ざわりではありませんか？」

「音楽？」と星野さんは言った。「ああ、とてもいい音楽だ。耳ざわりなんかじゃないよ、ぜんぜん。誰が演奏しているの？」

「ルービンシュタイン＝ハイフェッツ＝フォイアマンのトリオです。当時は『百万ドル・トリオ』と呼ばれました。まさに名人芸です。…」(略)

「いいえ、太鼓トリオではなく、大公トリオです。この曲はベートーヴェンによってオーストリアのルドルフ大公に捧げられました。…」

(下巻 新潮社 2002 p169-172)

夕方まで青年は、買ってきた『大公トリオ』を聴いて過ごした。百万ドル・トリオほど華麗で伸びやかな演奏ではなく、どちらかというと地味で堅実な演奏だったけれど、それはそれで悪くない。彼はソファに寝ころんで、ピアノと弦の響きに耳を澄ませた。その深く美しい旋律は彼の胸に染みこみ、フーガの精緻な絡みは心をかきたてた。

1週間前だったら、俺はこんな音楽を聴いても、たぶんただの一切れも理解できなかっただろう、と青年は思った。…

(下巻 新潮社 2002 p226)

### 鑑賞 LP

アルトゥール・ルービンシュタイン(p)、ヤツシヤ・ハイフェッツ(vn)、エマヌエル・フォイアマン(vc) 1941年録音

RCA AGMI-5244

請求記号 CLP14/270 (42124206)

### 関連 CD … 「大島さん」推薦の演奏

『大公ノます スーク・トリオ』

ヤン・パネンカ(p)、スーク・トリオ

1961年録音

SUPRAPHON COCO-6788

請求記号 CD14/ハト (41013251)

## 6. マイ・フェイヴァリット・シングズ / ジョン・コルトレーン

ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」から生まれた名曲をジョン・コルトレーンが同名タイトルのアルバムに吹きこんだ。これを発端に、多くのジャズ・ミュージシャンが好んでこの曲を取り上げるようになる。

ジャズ・ワルツとして最初はロマンティックに演奏されるが、後半はアクロバティックなフレーズが連続し、この曲をまったく独自の内容にしている。誰でも知っているおなじみの曲を、当時における最新のジャズ・スタイルで演奏してみせた。コルトレーンのはちに同じ「サウンド・オブ・ミュージック」から「チム・チム・チェリー」も吹き込んでおり、こちらも代表的な演奏として知られる。

### 『海辺のカフカ』

僕は沈黙を埋めるために口笛を吹く。『マイ・フェイヴァリット・シングズ』、ジョン・コルトレーンのソプラノ・サクソ。もちろん僕のたよりない口笛では、びっしりと音符を敷きつめたその複雑なアドリブをたどることはできない。頭の中に思いだすその音の動きに、ある程度の音を添えるだけだ。でもなにもないよりはいい。

(略)

いつのまにかジョン・コルトレーンはソプラノサクソのソロを吹きやめている。そして今ではマッコイ・タイナーのピアノ・ソロが、耳の奥で鳴り響いている。左手が刻む単調なリズムのパターンと、右手が積みかさねるぶ厚いダークなコード。それは、誰か(名前をもたない誰か、顔をもたない誰か)のうす暗い過去が、臍物みたいにずるずると暗闇の中からひきずりだされていく様子を細部までありありと、まるで神話の場面のように描写している。

(下巻 新潮社 2002 p276-277)

### 鑑賞 LP

『MY FAVORITE THINGS』ジョン・コルトレーン(s)、マッコイ・タイナー(p)、スティーヴ・デイヴィス(b)、エルヴィン・ジョーンズ(ds) 1960年録音

ATLANTIC SD-1361

請求記号 JLP/1 025/5b (41227430)

### 関連 CD … 鑑賞 LPと同内容の CD

『マイ・フェイヴァリット・シングズ』

(演奏者、録音年は上記参照)

ATLANTIC WPCR-25001

請求記号 CD23/コト (41253030)

## 7. ダニー・ボーイ / ビング・クロスビー

19世紀の中ごろからアイルランド北部のロンドンデリー州で歌われていた民謡「ロンドンデリーの歌」が原曲。

1913年にフレデリック・エドワード・ウェザリーが、そのメロディーを使って哀しい別れの歌「ダニー・ボーイ」を作った。

1941年7月に録音されたこのビング・クロスビーのレコードは、第二次世界大戦中に米国および英国の人々に愛聴された名盤で、愛する人と別れても再び逢う日をいつまでも待つという歌詞、そしてビングの心のこもる表現に大きな慰めを得たと言われる。

### 📖『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

エレベーターはあらゆる音を吸いとるために作られた特殊な様式の金属箱であるようだった。私はために口笛で『ダニー・ボーイ』を吹いてみたが、肺炎をこじらせた犬のため息のような音しか出てこなかった。

(新潮社 1985 p11)

私はビング・クロスビーの唄にあわせて『ダニー・ボーイ』を唄った。「その唄が好きなの?」「好きだよ」と私は言った。(略)彼女がもう一度『ダニー・ボーイ』をかけてくれたので、私ももう一度それにあわせて唄った。二度目にそれを唄うと、私はわけもなく哀しい気持ちになった。

(同上 p562)

それは唄だった。完全な唄ではないが、唄の最初の一節だった。僕はその三つのコードと十二音を何度も何度も繰り返してみた。それは僕がよく知っているはずの唄だった。

『ダニー・ボーイ』

僕は目を閉じて、そのつづきを弾いた。題名を思い出すと、あとのメロディーとコードは自然に僕の指先から流れでてきた。

(同上 p566)

### 鑑賞 LP

『懐かしき歌の街角/ビング・クロスビー』

ビング・クロスビー(vo)

DECCA SDL-10172 1941年録音

請求記号 JLP/ク 048/11(41223934)

### 関連 CD

…12種類の「ダニー・ボーイ」を収録

『ダニーボーイ 100%』 マリオ・ランツァ、ジエイムス・ゴールウェイ、リチャード・ストルツマン、レオポルド・ストコフスキー ほか

RCA BVCC7376

請求記号 CD01 (41044348)

## 8. ファイヴ・スポット・アフターダーク / カーティス・フラーほか

ニューヨークにあった名門ジャズ・クラブ「ファイヴ・スポット」に長期出演していたベニー・ゴルソン(ts)とカーティス・フラー(tb)の双頭クインテットがクロージング・テーマにしていたナンバー。マイナー調のメロディと、ゴルソン & フラーが織りなすウォームなハーモニーが日本人好みの響きを醸し出している。

この曲を収録したフラー名義のアルバム『ブルースエット』は、フラーの最高傑作として、またハード・バップを代表する名盤中の名盤として評価されている。

### 📖『アフターダーク』

「中学生のときに、中古レコード屋で『ブルースエット』っていうジャズのレコードをたまたま買ったんだよ。古い古いLP。どうしてそんなもの買ったのかなあ。思いだせない。ジャズなんてそれまで聴いたこともなかったからさ。でもとにかく、A面の一曲目に『ファイブスポット・アフターダーク』っていう曲が入っていて。これがひしひしといいんだ。トロンボーンを吹いているのがカーティス・フラーだ。初めて聴いたとき、両方の目からうるこがぼろぼろ落ちるような気がしたね。そうだ、これが僕の楽器だって思った。僕とトロンボーン、運命の出会い」

男は『ファイブスポット・アフターダーク』の最初の八小節をハミングする。

「知ってるよ、それ」とマリは言う。

彼はわけがわからないという顔をする。「知ってる?」

マリはその続きの八小節をハミングする。

「どうして知ってるの?」と彼は言う。(講談社 2004 p29-30)

### 鑑賞 LP

『ブルース・エット』 カーティス・フラー(tb)、ベニー・ゴルソン(ts)、トミー・フラナガン(p)、ジミー・ガリソン(b)、アル・ヘアウッド(ds) 1959年録音 CBS-SONY S0PU-1SY 請求記号 JLP/フ 074/1a(42194449)

### 関連 CD

…上記の続編。「アフターダーク」収録。

『ブルースエット 2』 カーティス・フラー(tb)、ベニー・ゴルソン(ts)、トミー・フラナガン(p)、レイ・ドラモンド(b)、アル・ヘアウッド(ds) 1993年録音

SAVOY JAZZ COCB-53852

請求記号 CD23/フラー (41312596)

## 9. アトランタ・ブルーズ / ルイ・アームストロングほか

「アトランタ・ブルーズ」は、ルイ・アームストロングがブルースの父 W.C.ハンディの名曲を録音した不朽の名盤『ブレイズ・W.C.ハンディ』（1954年録音）に収録されている。

前半を囚人の民謡から、後半も有名な民謡をもとにした「メーク・ミー・ア・パレット・オン・ザ・フロア」を借りてコーラスとしている。イントロから合奏に続き、軽快なタッチのカイル、パーカーの「オーニソロジー」を引用したショウのソロが続き、ルイのヴォーカルとなる。品のあるビガードと豪快なトラミーの対照的なソロの後は見事な合奏で盛りあげ、パターと称する演奏で落ちついた締めくくりをつける

### 『1Q84』

「ルイのトランペットと歌ももちろん文句のつけようがなく見事だけど、私の意見を言わせてもらえるなら、ここであなたが心して聴かなくてはならないのは、なんといってもバーニー・ビガードのクラリネットなのよ」（略）

そのソロはルイ・アームストロングの歌とソロとのあいだにはさまれていた。「ほら、よく聴いて。まず最初に、小さな子供が発するような、はっとする長い叫び声があるの。驚きだか、喜びのほとばしりだか、幸福の訴えだか。それが嬉しい吐息になって、美しい水路をくねりながら進んでいって、どこか端正な人知れない場所に、さらりと吸い込まれていくの。ほらね。こんなわくわくさせられるソロは、彼以外の誰にも吹けない。ジミー・ヌーンも、シドニー・ベシエも、ピー・ウィーも、ベニー・グッドマンも、みんなすぐれたクラリネット奏者だけど、こういう精緻な美術工芸品みたいなことはまずできない」

(BOOK2 新潮社 2009 p35-36)

### 鑑賞 LP 『ルイ・アームストロング・ブレイズ・

W.C.ハンディ』ルイ・アームストロング

(tp,vo)、バーニー・ビガード(cl)、トラミー・ヤング(tb)、ビリー・カイル(p)、アーベル・ショウ(b)、パレット・ディームス(ds)ほか

1954年録音

CBS ソニー SONP-50188

請求記号 JLP/A 004/26(41200452)

### 関連 CD … 鑑賞 LP と同内容の CD

『ブレイズ・W.C.ハンディ』

(演奏者、録音年は左記参照)

SONY SRCS 7058

請求記号 CD235/A-M (41293036)

## 10. ヤナーチェク：シンフォニエッタ

ヤナーチェクはチェコの作曲家。東洋的な特徴をもつモラヴィア地方の民族音楽をもとにした作品を生んだ。「シンフォニエッタ」は1926年の作品。もとはチェコの体育祭の式典用ファンファーレとしてつくられた。第1楽章は、舞台外からトランペット9本ほかのブラスバンドがファンファーレを響かせる。第2楽章では軽やかな舞曲風の楽想と抒情的な旋律が展開する。第3楽章では強い訴えかけをもつ麗しい旋律がギャロップ風の舞曲に転じる。第4楽章はトランペットによるモラヴィア民謡を素材としたスケルツォ。第5楽章は第1楽章のファンファーレが転じた旋律主題からなる。12本のトランペットが吹き鳴らす壮麗な響きで全曲が結ばれる。

### 『1Q84』

タクシーのラジオは、FM放送のクラシック音楽番組を流していた。曲はヤナーチェクの『シンフォニエッタ』。渋滞に巻き込まれたタクシーの中で聴くのうってつけの音楽とは言えないはずだ。

(略)

ただ身体のすべての組成がじわじわと物理的に絞り上げられているような感じがあるだけだ。青豆にはわけがわからなかった。『シンフォニエッタ』という音楽が私にこの不可解な感覚をもたらしているのだろうか。

(BOOK1 新潮社 2009 p11,16)

朝の早い時刻にヤナーチェクの『シンフォニエッタ』を聴くことは、日々の習慣のひとつになっていた。高校生のときに即席の打楽器奏者としてその曲を演奏して以来、それは天吾にとっての特別な意味を持つ音楽になっていた。その音楽はいつも彼を個人的に励まし、護ってくれた。少なくとも天吾はそのように感じていた。

(BOOK2 新潮社 2009 p34)

### 鑑賞 LP

小澤征爾指揮、シカゴ交響楽団

1970年録音

ANGEL RECORDS AA-8733

請求記号 CLP10/M851(40092900)

### 関連 CD

… 吹奏楽版「シンフォニエッタ」を収録

『ブラス・オン・ジ・エッジ』

エムパイヤ・ブラス演奏 1992年録音

テラーク CD-80305

請求記号 CD46/I/M (41046475)

## その他の音楽～クラシック&ジャズ～

村上春樹の長編小説などに登場する音楽を当館所蔵 CD よりご紹介します。

視聴覚資料室で貸出・予約・試聴が可能です。 ※【 】内は請求記号（資料番号）

📖 風の歌を聴け（1979）	
・ベートーヴェン：ピアノコンチェルト第3番／グレン・グールド、バックハウス	→CD『ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番・第4番』／ヴィルヘルム・バックハウス(p)、カール・ベーム指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 LONDON POCL-9936 【CD12/ハト(41300021)】
・ア・ギャル・イン・キャリコ／マイルス・デイヴィス	→CD『ザ・ミュート』マイルス・デイヴィス(tp)、ジョン・コルトレーン(ts)ほか PRESTIGE VICJ-41438 【CD23/テ化(41253998)】
📖 1973年のピンボール（1980）	
・ジャンピング・ウィズ・シンフォニー・シッド／スタン・ゲッツ	→CD『スタン・ゲッツ・アット・ストーリービル Vol.1&2』スタン・ゲッツ(ts)ほか ROULETTE TOCJ-5358 【CD23/ケツ(41286089)】
・ヘンデル：リコーダー・ソナタ	→CD『ヘンデル リコーダー・ソナタ集』ミカラ・ベトリ(リコーダー)、アカデミー室内管弦楽団 PHILIPS 412 602-2 【CD14/ハテ(40079287)】
・ヴィヴァルディ：調和の幻想	→CD『協奏曲集「調和の幻想」作品3』イ・ムジチ合奏団 PHILIPS 412 129/30-2 【CD12/ヒル(41030826)】
📖 羊をめぐる冒険（1982）	
・ホワイト・クリスマス／ビング・クロスビー	→CD『ビング・クロスビー 音楽自叙伝』ビング・クロスビー(vo) DECCA MVCM24003/6 【CD23/カス(41080441)】
📖 世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド（1985）	
・シェーンベルク：浄夜	→CD『新ウィーン楽派管弦楽作品集』ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 Deutsche Grammophon POCG2279/81 【CD10/シエ(41014747)】
📖 パン屋再襲撃（『パン屋再襲撃』1986）	
・ワーグナー：「タンホイザー」序曲、 「さまよえるオランダ人」序曲	→CD『ワーグナー・オペラ序曲・前奏曲・管弦楽曲集』カール・ベーム指揮、バイロイト祝祭劇場管弦楽団・合唱団ほか Deutsche Grammophon 413 849-2 【CD10/ワーク(41166844)】
📖 ノルウェイの森（1987）	
・カインド・オブ・ブルー／マイルス・デイヴィス	→CD『カインド・オブ・ブルー + 1』マイルス・デイヴィス(tp)他 SONY BMG SICP816 【CD23/テ化(41260605)】
・ワルツ・フォー・デビー／ビル・エヴァンス	→CD『ワルツ・フォー・デビー』ビル・エヴァンス(p)、スコット・ラファロ(b)、ポール・モチアン(d) RIVERSIDE RECORDS OJCCD210-2 【CD23/エル(41260035)】
📖 ねじまき鳥クロニクル（1992～1995）	
・シューマン：森の情景 第7曲「予言する鳥」	→CD『謝肉祭・幻想小曲集／シューマン』アルトゥール・ルービンシュタイン(p) Victor BVCC5082 【CD13/シエ(41258435)】
・モーツァルト：歌劇「魔笛」鳥刺し男	→CD『歌劇「魔笛」ハイライツ（第1幕・第2幕）』ゲオルグ・ショルティ指揮ほか LONDON POCL-2703 【CD15/エツ(41313081)】
📖 スプートニクの恋人（1999）	
・モーツァルト：歌曲「すみれ」／エリザベート・シュワルツコップ、ヴァルター・ギーゼキング	→CD『歌の翼に ～シュワルツコップ珠玉の名歌集～』エリザベート・シュワルツコップ(S)他 東芝 EMI TOCE1559 【CD16/シツ(41146341)】

📖 蜂蜜パイ (『神の子どもたちはみな踊る』 2002)	
・シューベルト：歌曲「ます」	→CD『歌の翼に ～シュワルツコップ珠玉の名歌集～』エリザベート・シュワルツコップ(s)他 東芝 EMI TOCE1559 【CD16/ｼﾞｯｼﾞ(41146341)】
📖 海辺のカフカ (2002)	
・ハイドン：チェロ協奏曲第1番	→CD『チェロ協奏曲第1番&第2番・協奏交響曲』鈴木秀美(vc)他 harmonia mundi BVCD34002 【CD12/ｸﾞｰ(41083049)】
・ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第5番「幽霊」	→CD『ルガーノ・フェスティヴァル・ライブ2007』マルタ・アルゲリッチ(p)他 EMI TOCE-56094/6 【CD01/ﾙｶ(41299348)】
📖 アフターダーク (2004)	
・ソフィステイクイテッド・レイディ/デューク・エリントン	→CD『デューク・エリントン 1944-1946：ブルーバード栄光の遺産』デューク・エリントン(p) BLUEBIRD BVCJ-7012-4 【CD23/ﾌﾙ(41012485)】
📖 1Q84 (2009、2010)	
・バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第1巻、第2巻	→CD『平均律クラヴィーア曲集全集』グレン・グールド(p) SONY 66DC 5147/5149 【CD13/ﾊﾞｯﾊ(41160516)】
・バッハ：マタイ受難曲	→CD『マタイ受難曲』カール・リッター指揮、ミュンヘン・バッハ合唱団、ミュンヘン・バッハ管弦楽団 ARCHIV 427 704-2 【CD17/ﾊﾞｯﾊ(41251059)】
・シベリウス：ヴァイオリン協奏曲/ダヴィッド・オイストラフ	→CD『ヴァイオリン協奏曲二長調作品6 1/ベートーヴェン ほか』ダヴィッド・オイストラフ(vn)、ユージン・オーマンディ指揮、フィラデルフィア管弦楽団 SONY CLASSICAL SRCR 2315 【CD12/ﾊﾞﾄ(41138769)】
📖 色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年 (2013)	
・ラウンド・ミッドナイト/セロニアス・モンク	→CD『セロニアス・ヒムセルフ+1』セロニアス・モンク(p)ほか RIVERSAIDE RECORDE VICJ-60170 【CD23/ﾓﾝｸ(41264920)】

## 参考文献

<音楽解説> ※当資料の音楽解説は、以下の文献のほか鑑賞LPまたは関連CDの解説リーフレットを参考にした。

- ・『スタンダード・ジャズのすべて大事典』小川隆夫著 全音楽譜出版社 2006 (請求記号 764.7RR/418 視聴覚資料室)
- ・『最新名曲解説全集：4：管弦楽曲Ⅰ』、『同：15：独奏曲Ⅱ』、『同：22：声楽曲Ⅱ』音楽之友社 1980～1981 (請求記号 760.9L/21 書庫)
- ・『新編 名曲名盤 300』レコード芸術編 音楽之友社 2011 (請求記号 760.9/156 視聴覚資料室)
- ・『クラシック不滅の名盤 1000』レコード芸術編 音楽之友社 2007 (請求記号 760.9SS/140 視聴覚資料室)

<村上春樹作品と音楽>

- ・『村上春樹を音楽で読み解く』栗原裕一郎ほか著 日本文芸社 2010 (請求記号 910.26/3043)
- ・『村上春樹作品研究事典』村上春樹研究会編 鼎書房 2001 (請求記号 910.26/2184 相談室常置)
- ・今井清人「村上春樹の音楽(2)『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』と『ノルウェイの森』を中心に」『専修総合科学研究』第21号(2013.10) 170-152p (請求記号 Z051/573 新聞雑誌室常置)
- ・今井清人「村上春樹の音楽：鼠三部作を中心に」『専修総合科学研究』第20号(2012.10) 226-195p (請求記号 Z051/573 新聞雑誌室常置)